



● 金丸弘美

かなまる・ひろみ/食環境ジャーナリスト。1952年生まれ。執筆活動のほか食のアドバイザー事業を手がける。著書に「ゆらしい島のスローライフ」(学研)、「創造的な食育ワークショップ」(岩波書店)、「田舎力 ヒト・夢・カネが集まる5つの法則」(NHK生活人新書)など多数。

7 イギリスの農家民宿

ロウファームを訪ねた

イギリス中西部のヘレフォードシャー県ペンブリッジ村のロウファーム(Lowe Farm)を訪ねた。ロンドンから車で2時間ほどのところにある。イギリスで主流となっている農家の宿泊施設B&Bを実際に体験するためである。

B&Bとはベッドルームと朝食(Bed&breakfast)の略。農家の一部を改装し、泊まれるようにした宿泊施設で朝食を農家が提供する。ここを拠点に観光をしてもらう。日本でも盛んに言われるようになったグリーンツーリズムのモデルである。ウイリアム夫妻の農場は、住まいと養鶏小屋を改装して部屋を作り、宿泊施設として運営している。農業はご主人が専門に行い、宿泊施設は、

奥さんのジュリエットさんが手がけている。

母屋にツインが2室。鶏舎を改装した離れは、ツイン1室、ダブル1室、シングル1室。離れのダブルの1室に泊った。

花柄の壁紙。飾窓には可愛らしいカーテンがあり、その向こうには緑が一面に広がっている。ベッドはきちんとベッドメイキングがしてある。シャワールームがあり、シャンプー、石鹸、バスタオル、バスローブが置いてある。トイレもある。

ホテルなみの居心地のよさだった。朝食は母屋の独立したランチルームでジュリエットさんがオーダーに来る。出てくるのはイングリッシュモーニング。トマトのグリル焼き、ソーセージ、ベーコン、卵、トースト、マッシュルーム。果物。紅茶とコーヒー。

ウイリアムさんの農場は80ha。日本では大規模農家だ。大麦、カラス麦(オートミール、ウイスキーに利用される)、ジャガイモ、牧草の栽培、羊100頭の飼育などを行っている。ところが、農業収入を訊いてみると800万円。そのうちの半分をB&Bが占めるという。年間宿泊客は1000人を超える。

農業だけでは苦しく、農閑期には水道工事や電気工事のアルバイトにもでかける。規模が大きい分、農業収益が高いかと思うとそうではなかった。生産だけでは収益は低い。日本と事情はまったく変わらない。

イギリスでは農家の事業として女性営むB&Bが急伸。8000軒もあり、1兆5000億円の産業になっているという。格付けもされていて、今や農家のB&Bはホテルと同格に扱われ、専門のサイトやガイドブックもある。EUでは、農村の観光を重要な産業と位置づけているのだという。

ジュリエットさんがB&Bを始めたのは、1999年。彼女は銀行に勤めて家計を支え、2人の子どもを育てた。そして、アレルギーにかかったことから仕事を辞めて、農場を活かすことができるB&Bに乗り出したのだという。

なにより素晴らしいのは古いたたずまいや農村景観が美しいこと。イギリスでは古い建造物をすべて活かす政策になっていて、景観保護や野鳥や昆虫など生き物を生息させるための条例と助成金があり、それが美しい村をつくりだし、観光の大きな要素になっていた。



【上】農家の古い建造物をそのまま使ったB&Bの外観。



【右】宿泊した部屋には毛足のながい絨毯が敷いてあった。